

蕾

宮澤 由季 埼玉県さいたま市 三十五歳

「部長、ミュートになってます」テレワーク中このセリフを何回言っただろうか。

定年間近の上司がweb会議の操作を覚えてくれない。会議が始まる前に必ず私に電話をかけてくる。私だってギリギリまで資料の整理がしたいのに、いつも部長のサポートに時間を取られていた。この日も何度目かわからない音声設定の説明をしていた。

部長が悪戦苦闘している中、私は何気なく部長の背後に目をやった。すっかり見慣れた書斎。木製の壁面ラックには家族写真と観葉植物が交互に飾られている。床に置かれたドラセナの鉢が、パソコンと格闘する部長を心配そうに見つめていた。

「あ、蕾」ドラセナをつややかな葉の間に小さな蕾を見つけた。

「気付いたかね」すると、部長は嬉しそうにドラセナを鉢ごと自分の膝に乗せた。パソコンの画面いっぱい緑葉が映し出される。真ん中に薄緑色の可愛い蕾がちよこんと顔を覗かせていた。

「それってドラセナですよね。花が咲くの珍しいんじゃないですか？」私がそう言うと部長は目を輝かせて頷いた。それから部屋中の植物を紹介してくれた。

「植物はいいぞ。こっちが足踏みしている間にも成長し蕾をつける」そして「今はしんどい時だが、我々ががんばろうな」と力強く言った。

翌週から私も書斎に植物を置いた。仕事の合間に眺めてはたくましい生命力に励まされている。私も緑のようにどんな時も上を向いて、花が咲く日を迎えたい。